

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

# MELDIA

知的障がい者と共に

## 創るもの

知的障がい者と共に

## 歩むこと

大矢真那による初取材!

## MUKU PROJECT ×大矢真那

布施博が訊く  
つながるひろがるアート展NASU

知的障がいを持つ息子と私  
水越けいこの「M size」

知的障がい者と一緒に物語を創る  
つむぐ 特別編

月刊メルディア  
VOL.3  
TAKE FREE

MELDIA

2018  
MAR

VOL.3

月刊メルディア 3月号 2018年1月25日発行(毎月1回25日発行)第3号 通巻3号  
発行所/一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

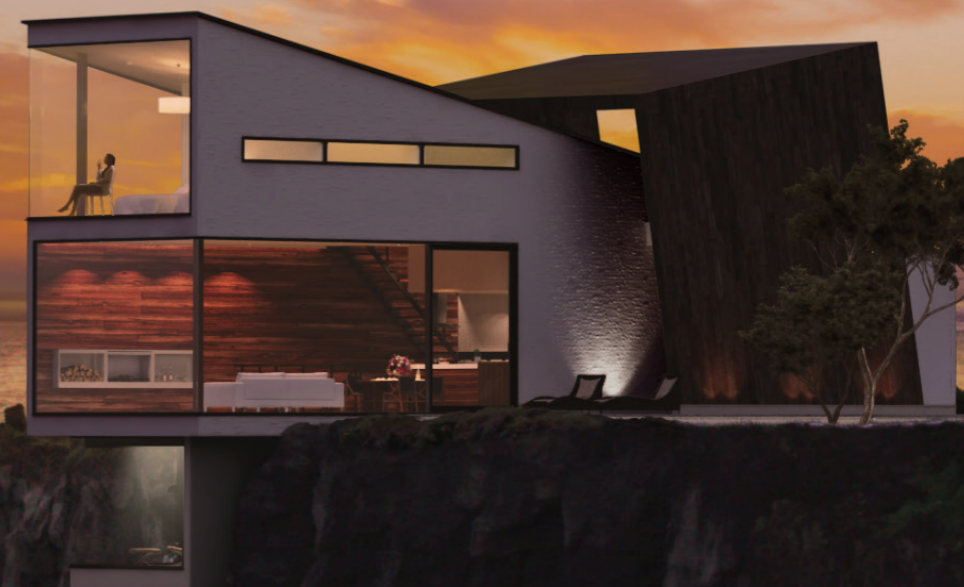
TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA  
GROUP

# 同じ家は、つくらない。



## メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計  
〒163-0632  
東京都新宿区西新宿1-25-1  
新宿センタービル32F

25th  
ANNIVERSARY

まだ25年、  
これからのメルディア



「生の芸術」とも称される  
障がい者アートの世界を  
布施博が那須で  
体感する

好きなものは  
続けることが出来る  
継続したことが  
人々を感動させる

那須塩原市とその周辺で毎年  
開催されている展示会「つな  
がるひろがるアート展NASU」。  
おもに知的障がいを持つアート  
作家らの作品を展示するイベ  
ントとなっている。今年で9回目  
の開催となるこのアート展では、  
総数180点以上にも上る作品  
が、同地域内の14もの施設に展  
示されている。多くの住民や観  
光客らが各展示施設を訪れるこ  
とで、地域活性化に繋がり、地  
元の協賛を得るなど、地域全体  
でこのアート展を支援している。

好きなものは続けることができる  
継続したことが人々を感動させる

好きなことをずっと続ける  
それ自体が価値へと変わる

布施 まずこのギャラリーバーンに入っ  
てびっくりしました。同じ鳥の絵が何十枚も  
展示されていて、これらはすべて同じ作家  
さんの作品だったんですね。

伊藤 布施さんが実際に彼ら（知的障がい  
者）が絵を描いているところを見たら、きつ  
と驚きますよ。傍らに画材を置いておくだ  
けで時間を忘れて描き続け、クレヨンなど  
はすぐになくなってしまうんです。

清野 彼らはね、上手く書こうという意識  
がまるでありません。ただ自分の衝動のま  
まに絵を描いているんです。「いい絵を描  
こう」という動機から描き始めるわけでは  
ないので、自分が飽きるまで、ひたすら絵  
を描き続けるんです。

布施 だからこそなのでしょね。ここに  
ある絵の数々を見て、言葉ではうまく言え  
ないけど、なんかこう、胸に来るものは確  
かにありました。もしかすると、これこそ  
が「芸術」ってやつなんですかね。（笑）

出来ないことを誰かが補う  
それを私たちがやるべき

布施 実際に自分の絵が展示された時に  
は、知的障がいを持つ作家さんはどうい  
う反応をされるんですか？

清野 うちの娘（編注・清野ミナさん）な  
んかは特に反応はありませんでしたけど  
ね。でも面白いことに、娘がここに来て、  
自分の絵が展示されていないと分かったら  
自宅からわざわざ自分の作品を持ってきて  
飾っていくこともあるんですよ。  
布施 それは面白いですね。

清野 そう思いますよ。やはりね、こう並  
べて展示してみると、掛け値なしに面白い  
ものになりますよ。同じ作家の絵を一度  
に何枚も観ることで、さらに彼らの作品の  
良さが伝わりますし。アーティストによつ  
ては「自分の絵と一緒に並べたくない」な  
んて言いますしね。（笑）

伊藤 ある部分では、彼らに負けているん  
じゃないかなあって。彼らの作品は、表現  
したいことがストレートなので、観る人に  
作品の良さが一発で伝わるんです。



ギャラリーバーン  
栃木県那須塩原市小結88-197／火曜定休（祝日営業）  
TEL：0287-64-2288 / URL：http://barn.jp/

伊藤 彼女の絵はとても面白いですよ。

布施 ええ拝見しました。ものすごく緻密  
に描かれていて、配色がとても鮮やかで、  
それこそストレートに良い絵だなあって。

伊藤 彼らは本当にいい作品を描きます  
が、こういった展示会を開催するというよ  
うな術を持たないのです。僕は、そこを  
手伝ってあげるべきだと思っています。

布施 つまり、「もし誰かに何か出来ない  
ことがあったら、他の誰かがそれを手伝っ  
てあげる」ということですよ。出来る  
事を出来る人がやる」、そんなシンプルな  
話のほすなのに、考えすぎるせいか上手く  
物事が回らないという気がします。

清野 私はね、彼らの作品が今より多くの  
方の目に触れることで、普通の「芸術作品  
」と同等に評価され、もっと世間に流通する  
ことがあっていいと思うんです。フランス  
では、知的障がいの者の芸術作品を「アール・  
ブリュット（生の芸術）」と呼び、芸術とし  
て正當に評価されています。アート展の作  
家さんたちを例にとると、作品を創ること  
は出来ても、それを発表するための展示会  
は開けない。だから、出来ない部分を我々  
が補う。それだけのことなんです。

布施 「価値のあるものに対して対価を払  
う」それが普通の話ですよ。これまでの  
取材で、知的障がいの者の雇用の現場では時



つながる  
ひろがる  
アート展  
NASU

布施博  
Hiroshi Fuse

1958年、東京生まれ。舞台俳優として  
デビューし、数多くの映画やテレビド  
ラマで活躍。バラエティ番組への  
出演も多い。現在は劇団「東京ロッ  
クンパラダイス」と「東京DASH!」を主  
宰し、後進の育成にも注力している。

清野隆  
Takashi Seino

「ギャラリーバーン」代表。自身もア  
ート作家として活動しながら、知的障  
がいを持つアート作家らの作品を集め  
たアート展を開催するなど、知的障  
がい者によるアートを社会に広める  
活動を長く続けている。

伊藤七男  
Nanao Ito

栃木県にある足利短期大学こども学  
科教授。大学で教鞭を執りながら、  
自身も現役の芸術家として活躍。障  
がい者アート作品への造詣が深く、  
「つながるひろがるアート展NASU」  
の顧問も務める。



# MELDIA

## 一般財団法人「メルディア」とは

障がいのある方を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じて、人々と社会に広く貢献することを目的として設立されました。

## 「メルディア」の基本理念

一般財団法人メルディアは社会的・経済的ハンディを抱える方々の「未来」に少しでも希望が持てるように、財団の活動を通じて支援し、社会貢献してまいります。

## 知的障がい者支援

障がい者の子供を持つ親の苦労や不安は計り知れないものがあります。さらに、親が「片親」の場合は、経済的負担や苦労・不安もその親1人で背負わなければならない状況です。不安な生活の中で、情報交換もあまりできない方々の情報源となるような刊行誌を定期的に財団で作成し、そういった方々への有益な情報提供と、障がい者の持つ課題等を広く社会に知ってもらうこと、そして様々な企業や個人から、支援団体などに対する寄付を募ることを目的として、本誌「MELDIA(メルディア)」を発行し支援活動を行います。

## 青少年スポーツ支援事業

### 家庭の事情等で経済的に恵まれない 青少年のフットボーラーのための奨学制度

アルゼンチンのロサリオ出身のリオネル・メッシは、経済的に恵まれない低所得な家庭に生まれましたが、チームが彼を支援し彼も成長して世界を代表するフットボーラーとなりました。メッシは才能を評価され、たまたま支援を得られました。しかし青少年の中には、才能があっても経済的な家庭の事情で、サッカーをする環境に恵まれずに支援がないまま、選手としてプレイを諦めざるを得なかったり、適切な環境でプレイすることができない人たちもいます。そういう若者が、日本にも数多くいるのが実情です。

そのような青少年フットボーラーがプレイを継続するために、「頑張る人を支える奨学制度」を財団法人メルディアが実施し、社会に貢献をしたいと考えています。

## 財団概要

名称 一般財団法人メルディア  
(英文名: general foundational juridical person MELDIA)  
設立者 小池 信三  
設立日 2017年5月23日  
所在地 〒163-0632  
東京都新宿区西新宿 1-25-1  
新宿センタービル 32F  
電話 03-5381-3213  
URL <http://meldia.org/>  
MAIL [prd@san-a.com](mailto:prd@san-a.com)



### ALL ABOUT MELDIA

## 「メルディア」とは?

「メルディア」とは、イタリア語である「メダリア」の造語で「メダルを」という意味です。財団メルディアは、『輝かしい人生』を手に入れて頂きたいという想いが込められた名称です。障がい者本人に加えその家族、また経済的な理由からスポーツが続けられない青少年など、「社会的なハンディキャップ」を持つ人々に対して『夢を諦めることなく挑戦することができる』ように支援をしていくことを目指しています。

# MELDIA

## 布施博が訊く つながるひろがるアート展NASU



給に換算すると100円にも満たない場合もあると聞きました。労働にしてもそうですけれど、アート作品にしても、正当に評価されないというか。そこは毎回「おかしいなあ」と思っていますよ。

伊藤 僕らの側にしても、見直す点は大きい有りそうですね。「これは正しい、これは違う」という判断基準が強すぎるせいで、中立的で正当な考え方をすることが難しくなっているのかもしれない。

清野 実際に作品を生で観てもらえたら、理解者はきっと増える。だから、このイベントを毎年開催したいと思っています。

### 出来ないことを周囲が助ける 出来ることを見つけてあげる

布施 理想論かもしれないですけど、その

人が好きなこと、出来ることを誰かが見つけられないでいるのだとしたら、それを他の誰かが手伝って見つけてあげる。最終的にそれで生活することが出来たり一番いいですよ。仕事をすることに喜びを感じ、それによって生活の糧を得るということ。または、それがきっかけとなって全く違う道に進んでもいい。その人が出来る事や、可能性を探るといふのを、手伝ってあげる必要があるのではないかと思います。

清野 私はね、この辺りにもっとギャラリーが多くあればいいと思っています。1カ所に集まっている方が、観る側にとっても、自分に合ったペースで観ることができて、より多くの感動を得ることが出来るんだと思っていますから。

伊藤 誰しも何かの才能があるように、彼らは完成された「何か」を最初から持っていると思うんです。それを外に出してあげるといふか、内から外へと出させてあげるには、やはり「環境を与えてあげる」ということに重きを置くべきだと思います。

布施 まずは、固定観念や先入観を捨てて、出来ない人がいたら、「出来ることを一緒に探してあげる」「手伝ってあげる」ことがとても重要だということですよ。

取材&文/渡邊希望



アートを持つパワーは生で観ないと絶対に伝わらない。清野さんも伊藤さんも「良い作品が多い」と言う。なんか、凄く素敵に感じるよなあ。(布施博)



清野さんの次女・ミナさん。彼女もアート作家の一人。彼女が描いた作品は、とても緻密で色彩が豊か。



このコーナーでは、布施博さんとの対談を希望される方を募集しています。募集の詳細はP28をご覧ください。



MUKUプロジェクト代表の松田さん。知的障がいを持つアーティスト達の作品をネクタイや傘などの商品デザインにしている。

らが描いた絵というものは、見てもらえれば「どうです、素敵でしょう?」と説明もしやすいですから、分かりやすさも含め、新しいビジネスモデルとして、彼らのデザインを発信していけたらと考えました。

西野 私がMUKUに入ったのは今年の春くらいなのですが、私の妹にも知的障がいがある、福祉のことに興味はあったのですが、障がい者の方たちがやっているアートがあるという事は知らなくて。私は政治を勉強していて、デザインやアートの事とかは全くわからないんですが、MUKUプロジェクトのデザインを見たときに、すごくかっこいいなって思ったんです。大矢 MUKUプロジェクトのことはどういう経緯で知られたんですか?



東京都港区  
MUKUプロジェクト

# 障がい者を応援! いきいきと働こう

“知的障がい者と社会の橋渡し”をテーマに、知的障がいを持つ方たちが描く感性豊かなアート作品を再編集し、プロダクトとして世の中に提案していくMUKUプロジェクトブランド。今回はMUKUプロジェクトの松田さんと西野さんからお話を伺いました。



大矢真那による初取材!

大矢 まずは、こちらのMUKUプロジェクトさんがどういった活動をされているのかをお伺いします。

松田 知的障がいを持つ方々が描いたアート作品の中には、かなり面白いものも多くありますので、それを「プロダクト」として商品に落とし込んでいって発信しようという活動をしています。

大矢 MUKUプロジェクトのMUKUってというのは何から来ているんですか?

松田 MUKUは純粹無垢からとっているんです。私は美術系の大学を出ているのですが、通常美術作品も、世の中に求められるものを描き、このサイズなら幾らくらいにはなるだろうと、金銭的な事も考えながら描く事が多いのですが、知的障がい者の方々は本当に純粹に描きたいものだけを描いている方がほとんどなのです。そこから純粹無垢のMUKUを使いました。

大矢 なぜデザインを扱うという方向に向かわれたのでしょうか?

松田 私には自閉症を持った兄がおりまして、それもあって福祉業界に関わる仕事にずっとしたかったんです。ですが、どうしても福祉施設がやっている「就労支援」というのは「働かせること」が目的となってしまうので、その後のモノを発信するという部分は疎かになりがちでした。しかし、彼



働かせる目的だけではなくそのモノを発信したかった

西野 私はネットで調べて、MUKUのホームページを見ました。イギリスに留学していたのですが、そこからすぐに連絡をしました。

大矢 確かに素敵なホームページですね。

松田 ありがとうございます。やはり見せ方は大事だと思います。どのように見てもらうかで、良い商品をもっと良く感じてもらえると思います。

大矢 いまMUKUプロジェクトに参加している知的障がいを持つアーティストの方々は何名いらっしゃいますか?

松田 現在は6名です。その6名の方に作品を提供してもらっています。

大矢 質問なのですが、知的障がいを持っている方たちが、皆さんアートを、絵をやっていらっしゃるのでしょうか?

松田 いえ、全く絵を描かない方もおられます。健常者と同じですね。才能のある方、そうでない方、いろいろです。

西野 私の妹も絵は全く描きません。

松田 残念ですが、うちの兄もですね。兄弟で参加できれば理想なんです。

大矢 6名の方々にはデザイン提供の報酬が支払われているんですか?



牛革製のブックカバー(A6文庫サイズは同じデザインのペンとセットになっています。高級感があって、プレゼントにも最適です。



# トウテミル!

知的障がい者の雇用について問うてみる

MC / 女優

右手ナギ

うて・なぎ



## 結末のない物語だからこそ 想像する楽しみを持てる

映画・ドラマ・小説・漫画・アニメ。

世の中は沢山の「物語」で溢れています。皆さんもこれまでに様々な媒体で様々な物語を観て来たことでしょうか。

実は私、アニメや漫画が大好きで、観たい作品があり過ぎて、「このままでは寿命が足りないのではないか」と思うほどです。最近では「大きいお友達」と呼ばれる層をターゲットにした作品も増え、お決まりだった「ハッピーエンド」以外の終わり方も多く見受けられるようになりました。

たとえ、答えがはっきりしていかなくても、はっきりしていないからこそ、色々と想像し、また、他人の想像に対し「こんな考え方もあるんだ」と感心することもあります。

松田 勿論お支払いしています。完成したネクタイなどの作品もお渡ししますが、売り上げでは無くて、製造した作品数のパーセンテージで先にお支払いしています。右手 販売されている商品のお値段も、高めの設定になっているようですが、これには意図があるのでしょうか？

いると自負しています。立派な技術で、しっかりした素材を使って制作していますので、商品の値段は高くなってしまいます。大矢 完成した商品に対するアーティストの皆さんの反応はいかがですか？

## 苦勞と感じることは何も無い 就勞や生活の支援が目標です

大矢 障がいを持たれている方たちと一緒にプロジェクトを行うにあたって、苦勞されている点などありましたか？

松田 苦勞……なんかあるかな？ やっぱ「この辺が苦勞してます」とかが無いと記事になりにくいですよ？

大矢 いえ、そんなことはないですよ！ 右手 ご家族に障がいを持たれた方がいらっしゃるというのが影響していますか？

想像力の大きさや、物に対する価値観は、その人が育った環境や経験などで大きく変わると言われています。

MUKUプロジェクトのロゴマークを例に取ると、そのモチーフとなった物を考えてみるだけで、それは水が跳ねている様であったり、花が咲いているかの様であったりと、何通りもの想像ができます。

また、MUKUプロジェクトがプロダクトに使用している知的障がいを持つアーティストによる絵や柄などは、「可愛い」、「格好いい」、「お洒落」だと感じるだけではなく、そこに何が描かれているのか、何がモチーフであるのか、見る人によって受け取り方が千変万化します。

「MUKU」の由来通り、知的障がいを持つアーティストが「純真無垢」に描いた作品に、松田さんや西野さんが価値を付け

松田 苦勞だと感じない点だと思います。大矢 今後の展望などありますか？

松田 いろんな団体や福祉施設が障がい者アートを支援していたりするので、その全部を一つの事務所や工房と捉えて、彼らが自分たちをブランド化して、それに対して色々な仕事舞い込んでくるような仕組みを作れたら面白いですね。その中心に、我々MUKUプロジェクトがいらればいいと思います。

西野 私たちは家族に障がい者がいたので、こういう業務にも親しみがありませんが、一般の家庭の方にも慣れ、もっと親しんでもらえたら嬉しく思います。

松田 最終的には福祉施設自体を運営出来るようになって、障がい者の方たちの就業や生活を支えていけたら最高ですね。

て、プロダクト（商品）にしています。

アーティストとMUKUプロジェクトとの協業によって起こる化学反応の結果、ロゴマークだけで、ひとつの絵や柄だけで、何通り、何十通りもの見方や想像が出来るようになっていきます。これこそが、MUKUプロジェクトの狙いなのだと松田さんと西野さんは語ってくれました。

「想像」には無限の可能性が秘められています。その人が育った環境や経験で、物事の受け止め方が変わるとするならば、少し見方を変えたり、いつもと違うことをしてみるだけで、同じ世界をこれまでより何倍にも楽しむことが出来るようになります。



MUKUプロジェクトで展開する商品の一つである蝶ネクタイを着用している西野さん。男性も女性もさり気なくお洒落を楽しめそうです。



障がい者が作る、「安くて良いもの」ではなく障がい者アーティストによるデザインで熟練の職人と技術が作り出す最高の商品を!



仕事は、清掃作業や印刷業、OA作業など様々だ。「A型」の特徴は、都道府県が定めた最低賃金以上を支払わなければいけなくなっている。そのため、収益性の高い事業でないとはっきりと継続しないという。障がい者が働いて、軽作業が多い「B型」の月平均賃金約1万5000円に対し、「A型」の平均は約6万8000円だ。最低賃金以上の賃金が得られて、就労継続支援にもなるので、一見ただけでは良い仕組みにも見える。

ただそこは補助金行政なので、好ましくならぬ業者が参入してくることもある。本来は補助金は事業継続のために使われて、賃金はそこで得た収益から支払われなければならない。ところが、収益の上がる事業が出来ないために本来使われるべき所に補助金が使われず、賃金の支払いに回してつじつま合わせの方策を取っている事業所が多

緊急取材！

# 障がい者就労施設で 相次ぐ閉鎖・大量解雇。 本来あるべき姿が 求められる。

11月17日、広島県の一般社団法人が運営する障がい者就労施設の2か所が閉鎖され、合計112名の利用者が解雇されてしまった。7月には7事業所で283名が解雇、8月には6事業所で153名が解雇され、100名を超える大量解雇は今年で3例目だ。なぜこういった大量解雇が発生してしまうのか？



数あるという。また、ひどいところになると、賃金を支払いたくないのでわざと就労時間を抑えたり、実質的な事業を行っていない業者も存在するといふ。

例えば、今回破綻した広島市の法人も、開所時から経営が厳しく、補助金頼みの経営だったことを認めている。事業の低迷が続き、勤務時間などの短縮でその場しのぎの経営を続け、賃金の未払いすら発生し、最終的に継続不能と判断して、閉鎖に踏み切ったという。最初から「A型」への参入に向いていなかったのだ。

そこで国としては、今年の4月から規制強化を行い、収益を出せない事業所には厳しく対処することとした。それで、事業所の破綻・大量解雇が相次いでいるのだ。ある事業所関係者は、こうした一連の流れについて、こう感想を漏らす。

「確かに問題のある事業所には退場してもらうことが必要でしょう。ただ、そこでは多くの利用者が働いていることも事実。補助金頼みのビジネスを作って、新規参入を図ったのは国です。今、このタイミング

## 収益の上がない事業者や 補助金狙いの事業者も

またも障がい者が働く施設が破綻し、そこで働く障がい者の大型解雇が発生したことで、関係者間で衝撃が走った。

今回破綻したのは、広島県福山市にある一般社団法人「しあわせの庭」が運営する2か所の障がい者就労継続支援A型事業所。合計で112名の利用者が解雇された。

事業所では、ポップコーンの製造販売と食品包装材加工の軽作業が障がい者らによって行われていたという。

なにしろ、今年に入り100名を超える大量解雇が発生したのが3例目なので、ただ単に人数の問題だけではなく、A型事業所の制度的な仕組み自体に疑問の声が上がっている。

ところでこの「A型事業所」とはどういうものなのか。まずはその仕組みの説明が必要だろう。

2006年に施行された「障害者自立支援法」で就労関連事業が拡大されて生まれたのが、「A型」と「B型」で、いずれも国と自治体からの補助金で運営されている。「A型」は全国に約3600か所あり（B型は約1万か所）、障がい者は雇用契約を結んで働きながら技能を身につける。

の規制強化にも疑問を感じます。利用者ばかりがづらい目にあっているというのが現状じゃないでしょうか」

一方、全国を見渡せば、「A型」にこだわらずに障がい者を雇用しつつ、経営的にも成功している事例は多数ある。厚生労働省には、今回の措置がこうした流れに逆風をもたらすものにならないような方策が望まれる。

その厚労省は、「A型事業所は障がい者が地域で自立した生活を送るために公金を投入するもので、事業者のための事業ではない」といったコメントを出しているが、型通りのコメントにしか聞こえない。

また同省では、事業所の実態調査を行い、来年の4月以降は賃金水準や活動実績に応じて事業所に支払う報酬額に差をつける方針も示している。こうした方策が制度的な改善につながり、ひいては、厚労省のコメントにあるような「障がい者が地域で自立した生活」を送るために役立つようになれば良いのだが。

また、障がい者が失職することで、中には突然の環境変化に戸惑う人も多からう。早期に次の職場に移れるよう、国や自治体、地元の福祉事業所が一体となって対応することで、早期にセーフティネットが構築されることが望まれる。

世界で1枚だけの名刺を制作  
知的障がい児童による手書き文字を活かした

キセキノメイシ



決して狙うことなく文字や絵を描く感性には  
驚かされっぱなしです

製品に自信があるので  
決して安売りはしない

知的障がいがあるからこそ描ける、味わいのある文字を活かした名刺を作成して、これをビジネス的にもつなげていくという社会福祉プロジェクトを行っているのが、東京都渋谷区のコンサルティング会社の「ザクセスコンサルティング」だ。

代表の鬼頭秀彰氏は、このプロジェクトを行なうに思い至ったきっかけについてこう話す。

「我々は製造業をメインのクライアントにしたコンサルタントで、福祉とはもともと直接関係はありませんでした。ではなぜこの事業を思いついたかと言えば、やってみたくて思いつきです。クライアントさんは物を作るのは上手だけれど、売るのはあまり得意ではない。その営業の仕組みを考えるのが我々の仕事なんです。それと同じだと思ったんです。知的障がいを持つ子供さんは独特な味わいの文字を書く人がいます。この能力はセールスポイントになると考えたのです」

2011年11月からこのプロジェクトを始め、トータルで1000件以上の受注があったという。100枚刷って値段は5000円(税別)。名刺の値段としては正直、

割高だ。だがそこはやはり世界に1枚だけの『キセキノメイシ』という製品に自信があつてのことだ。

「値段としては安くはないですが、デザイン制作と見れば割安にしているつもりです。障がいを持つ方が働く作業所では、仕事が欲しいから安く仕事を引き受けがちですが、そういう安売りはしたくない。また、そういった安売りをするという考え方を私たちがなんとか変えたいという思いもありました」(鬼頭氏)

人に喜ばれる仕事ができ  
親御さんは驚きさえ

障がいを持つ人の独自の世界観が現れたデザインセンスを活かす発想は、名刺から企業ロゴの制作にもつながり、そうそうたる大企業のロゴ制作も請け負っている。

「弊社のサービスをj利用する企業様にとっては障がい者支援のCSR(社会的貢献活動)にもつながります。そういう形で



制作者の1人、masaさん。1文字ずつ、時間をかけて丹念にデザインを作成する。ここから世界で1つしかない名刺が生み出されていく。



編集部でも名刺を作成しました。

彼ら(障がい者)の強みが生かされるわけです」(鬼頭氏)

決して障がい者を特別扱いせず、パートナーとして付き合い、彼らの強みを企業活動につなげる試みだ。親御さんの反応も上々だという。「本人も含めとても喜んでもらっています。単に仕事をするというだけでなく、人に喜んでもらえる仕事ができるんだということ、驚かれるくらいです」(鬼頭氏)



障がい者と制作作業を行なう際に、既成観念にとらわれなく迷いのない線やデザインが立ち上がる現場が楽しくて仕方がないといった表情で、嬉しそうに話す鬼頭氏。

一昨年と今年4月には、特に障がい者の作品と銘打つことなくアート展も行い、とりわけ宣伝もなかったのに共に完売の盛況だったという。今後に計画しているという、さらなる展覧会やイベントの開催で夢が膨らんでいるようだった。

安売りはしない



ザクセスコンサルティング株式会社  
代表・鬼頭秀彰氏 愛知県生まれ  
大学卒業後、商社での営業職を経て経営コンサルティング会社に入社。  
2010年、中小製造業専門のコンサルタントとして独立し、現在に至る。





# はじまり

水越けいこ連載

3



## シンガーソングライター 水越けいこ

1954年山梨県生まれ。1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後シングル「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子と二人暮らしをしながら音楽活動や講演活動を続けている。

水越けいこブログ <https://ameblo.jp/keiko-mizukoshi/>

### 高熱が続いた幼少期の息子 「川崎病」と診断される

この連載も3回目を迎えました。前回は息子「麗良（れいら）」の幼少期のお話を書きましたが、今回はその後の出来事を思い返してみたいと思います。

息子が4歳くらい、健康がまだまだ安定しない頃の事です。高熱を出してしまっただけで、まずは近所の病院へ連れて行きました。ちょうど寒い季節に差し掛かった時期だったせいか、「風邪」と診断されました。

私は、診断通りに風邪だと信じ、息子に薬を飲ませました。でも、息子の病状は一向に良くなる気配がありません。

あまりにも改善が見られなかったため、別の病院に連れて行きました。診断の結果

は先の病院と同じく「風邪」。この病院で違う薬を処方してもらい、それを飲ませたものの、高熱は下がりませんでした。

ついには、10日以上も苦しんでいる息子を見て、素人の私でさえ、「何か違う病気ではないか？」と疑い、ホームドクターの所に駆け込むと「川崎病」の疑いがあると言われました。私も初めて聞く病名でした。ホームドクターはすぐに、東京医大へ行く手配をしてくださいました。

検査の結果は、「川崎病（※1）」でした。川崎病の症状は風邪の症状にも似ていて、診断が難しい病気の一つだそうです。

治療をし、高熱が下がっても、後遺症が残る可能性があることを告げられました。例えば、心臓動脈の一部が拡張することなどもあり、もしそこに血液の塊などが溜

まってしまつと、重篤な症状を引き起こす可能性があるとのこと、念のため力テール検査をして血の塊が無いかを入念に調べていただきました。

検査の結果、息子には幸い後遺症は残りませんでした。入院は3週間続きました。入院中、面会時間が終わり私が帰る時、息子が泣きたい気持ちを我慢して顔を引きたらせながら、私に手を振るのを見るのがとても辛い毎日でした。「泣いてもいいのに」といつも思っていました。

最近の息子は、病気をすることも少なくなり、私より多くの食事が摂れるくらい元気です。幼少期からすれば、とても幸せな事です。今は息子と一緒に過ごせる食事の時間が楽しみの一つになっています。

### たった一秒でもいい あなたより長く生きたい

2018年もういよいよ本格的に始まって参りましたね。私はこの2018年を持ちましてデビュー40周年（※2）を迎える事になりました。デビューした当時から歌詞もメロディーも創り続けておりますが、デビュー当時は「自分の子供への作品を創る」というような想像をしたことがありませんでした。今回はそんな「自分の子供への作品」のお話をさせて頂こうかと思えます。

息子「麗良」が産まれる前、出産を楽しみにしている頃の事です。ふと「産まれてきた息子へ」というテーマで作品を創って

みたいと思いを立ちました。

私は母親を早くに亡くしておりますので、母親との思い出はほとんどありません。私自身、そんな環境でもありましたので、自分と息子が向き合う上での、理想の関係を歌い出しにしてみました。

「ねえ聞いて 友達のように いつまでも澄んだ瞳で話そう」

「そして あなたと始まったありふれた日を きつと幸せにしよう」

出産の日までずっとイメージを膨らませて、実際に文字にしたのは息子が産まれてからの事でした。

曲のタイトルは「Together」と名付けました。シンプルに「一緒に」という意味です。

当時の私は気が付きませんでした。この作品を振り返ると、自分自身への誓いのように感じます。だから今でも、息子と生活する上でのテーマとなっています。

息子が産まれて時が経ち、再デビュー（※3）する際に、当時のプロデューサー、作詞・作曲家の伊藤薫さん（※4）、そして私の3人で、「もう一曲、子供に向けての作品を創ろう」という話になり、曲作りを進めました。息子がダウン症だということがあるので、プロデューサーと伊藤さんには、色々と気を使って頂きました。創作段階に



水越けいこ「僕が気持ちいい」絶賛発売中!

おいては、障がいを持つ母を描いたシーンがあったりしましたが、私は歌手として、「全てのお父さん、お母さん」にメッセージを伝えたくかったので、そこは譲らずに主張を通させて頂きました。彼らとは何度も歌詞のやりとりを繰り返しました。

こうした生みの苦しみを経て、後に完成した作品「You are my life」では次のような言葉で歌詞を締めくくっています。

「たった一秒でもいい あなたより長く生きたい」

よく耳にする言葉ではありませんが、自分の子供が大きくなっても、愛情はずっと変わりません。ご紹介した作品には、どんな時でも子供を見守っていたい親の気持ちを盛り込めたかな、と思っております。

## つむぐ

障がい者アートが持つ魅力  
彼らの作品について考える

「素敵だと思いませんか？」

これは私が本記事を書くきっかけになった言葉です。以前、私が養護学校へ見学に行った際、施設の案内してくれた先生が、生徒さんの絵を観ながら私に言った言葉です。私は、力あふれる絵の数々と、それを誇らしげに見つめる先生が「素敵だ」と思い、今でも印象に残っています。

ある日、一冊の本が編集部においてありました。それは、知的障がいを持つアト作家らの作品を収めた図録でした。私はこの図録を見て、「楽しい」と感じました。実はこの頃、個人的に思うところがあり、障がい者アートに対して造詣が深い方に話を伺いたいと思っていました。

この図録を作った一人が、本号の巻頭にも登場する、足利短期大学のこども学科で教鞭を執られている伊藤七男さんです。

編集部経由で伊藤さんに連絡をし、取材をお願いすることにしました。伊藤さんは、大学教授でもありながら、ご自身も現役の芸術家として活動されており、那須塩原市とその周辺地域で開催の「つながるひろがるアート展NASU」の顧問もされている方でもあります。

取材は、那須にある伊藤さんのアトリエまで伺って行うことになりました。

画法について語らない理由  
創作活動とはそもそも何か

伊藤さんにお会いして、まず初めに、今回取材をお願いするに至った経緯をお話しました。障がいを持つ方たちの作品を私が初めて観た時の驚きと感動をお伝えしようと、私の養護学校見学の際のエピソードからお話することにしました。

伊藤さんは何度も深く頷きながら、私の話を促すなど、とても話しやすい雰囲気を作ってくださいました。

そんな伊藤さんの意見を、ますます聞きたくなったのは言うまでもありません。気付けてみれば、取材開始からしばらくの間は、まるで取材者と被取材者の立場が逆転したかのような感じでした。

ふと、我に返った私は、「障がいを持つ人の絵の魅力とは？」と伊藤さんにお聞きしました。このようなページを担当しながらも、実はまだ、障がいを持つ方々が創るアートの素敵さや素晴らしさを表現する言葉が見つからずにいました。その魅力についてを伊藤さんに意見を乞うたところ、その返答は私には少し意外なものでした。

## 伊藤 七男

Nanao Ito

栃木県にある足利短期大学こども学科教授。大学で教鞭を執りながら、自身も現役の芸術家として活躍。障がい者アート作品への造詣が深く、「つながるひろがるアート展NASU」の顧問も務める。

## 渡邊 希望

Nozomu Watanabe

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年「劇団ショートホープ」を立ち上げる。活動は脚本家と俳優に留まらず演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。

伊藤さんは、彼らが創るアート作品の画法や手法については一度も言及することはありませんでした。作品に対する具体的な評価についても一切語られませんでした。こちらから、「彼らの画法について、どう思われますか？」と問えば、それはそれで済む話でしたが、なぜか私は、最後までその質問を伊藤さんにぶつけることが出来なかったのです。

伊藤さんに問うことができなかった理由は、自分でもあまりに漠然としていると思いました。私の逡巡を解決するには、そのような即物的な質問のやり取りではうまくいかないような気がしたからです。

伊藤さんによると、「知的障がいを持つアート作家の凄さの一つは、その創作意欲の強さにある」とのこと。伊藤さんが彼らに影響を受けたのは、「その創作に対する情熱的な姿勢だった」と語っていました。

この時でも、やはり伊藤さんは、彼らが生み出す作品自体のことについては評価など一切せず、「自分の作品は、ある部分では彼らに負けているかもしれない」とまで仰いました。それがただのリップサービスであるとも思いませんでした。私は、話の核心を突けずにいつつ、伊藤さんとの会話の中で漠然としながらも確実に「何か」が伝わって来ており、確信に近い結論にまで





到達しそうな感覚がありました。

「誰かが何かを創り出す」ということは、作り手の人生をモノ（生み出される何か）に反映させる作業です。また、「価値観」とは自分の人生そのものだと思います。

私が役者として芝居をする時、誰とも同じ演じ方にならないのは、過ぎてきた人生が誰とも違っていったからに他なりません。創作活動とは自己表現。だからこそ、創作でしか出来ない表現が確かに存在します。私の中にこんな持論があることにより、伊藤さんが持つアートへの価値観は自然に分かった気がしました。そして、この理解こそが私の結論にも繋がるのです。

伊藤さんは「知的障がいを持つ人とアートは相性が良い」とも仰いました。個人差はありますが、知的障がいを持つ人は、好きな事をやり続ける力を持っています。また、色彩感覚などに関しては、彼らにも私たちに何ら差はありません。さらに、創作活動をするにあたっては、一般的ではな

い発想が求められる場合も多くあります。

「相性が良い」という言葉は、私にはとても小気味良く響きました。そして、この言葉を聞いて私は一つ結論を出しました。

障がいを持つ人たちにとって、時に絵は会話以上に自分のことを周囲に伝えられる手段なのではないか？ と。障がいを持つ方の中には絵が苦手な人もおられ、彼らの好きなことに対しての熱意は創作活動に活かされやすい。会話も、創作活動も、一つの「表現」だと考えると、彼らは会話より作品を創る方が自分自身を表現しやすいのではないかと。つまり、私たちが会話をすること、彼らが絵を描くことは、近似した「表現方法」なのではないでしょうか。彼らは絵を通して周囲と会話をしていると、言えないでしょうか。もしそうだとすれば、作品を観た時に感じる、「何か」を訴えかけられるような感覚は、作品から彼らの言葉を感じているからなのかもしれません。

先述した、創作に対する私の持論は、「表現とは人生そのもの」と要約できます。

現代は、言葉によるコミュニケーションが必要な時代です。しかし、同時に会話が苦手だということを「個性」と捉えることもできる、捉えるべき時代でもあります。

もし仮に、私たちの中に「会話」という概念が存在しなければ、絵を描いたり、ダ

ら、「これは私の意見だ」と言えます。

伊藤さんは、「彼らが好きなように自由に何でもさせてあげることが大事だ」とも仰っていました。それは、伊藤さんが障がいを持つアート作家らの作品を褒めつつも、画法や手法について言及しなかったことと理由であるように感じました。

「自由に何でもさせる」とは、注意をしないのと同時に、それを褒めることでもありません。伊藤さんは「障がいを持つ人が作品を創り、その作品に感動する人がいること」、その全体を指してアートを「良いもの」だと仰っていたのかもしれませんが。

伊藤さんの見解はいつもシンプルでした。だからこそ、私は自分のことを深く顧みることができ、一つの答えを導き出せました。それが、伊藤さんの教育者としての魅力なのだろうと。「手出しをすると途端に魅力が薄れる」とも語った伊藤さん。今回の取材にしても、私を「自由にさせてくれていたのだ」と、最後に気付かされました。



## 彼らは絵を描くことで自分の気持ちを紡いでいる 一所懸命に紡いだ全てのものは感動的で画になる

伊藤さんと話して私が実感したことは、巷にあふれる「一般論」でした。その点では、もしかすると「頭では分かっている」という事が、ある意味では危うい事なのかもしれないとも思いました。「分かっているはずのこの真意に気付く」という感覚はなかなか得られるものではありません。この記事に携わっていった先に私はどれだけ「気付く」ことが出来るのか。そう考えただけでもワクワクしてきます。

次号の「つむぐ」では、伊藤さんに紹介していただいた「清野ミナさん」というアート作家さんとお話をさせていただきます。知的障がいを持ちながら創作活動をされている方です。皆さまお楽しみに。ご感想やご応募など、メルディアまでお気軽にお寄せ下さい。



## 伊藤七男 × 永田典子 二人展 Matamata D N<sup>2</sup>A

開催日時：2018年2月19日～3月3日  
(12時～19時まで開廊・日曜休廊)  
開催場所：SPC gallery  
〒103-0026  
東京都中央区日本橋兜町9-7  
SPCビル3階  
TEL / 03-3666-1036  
お問合せ：SPC gallery

# アライブしようぜ!

最前線の生きるを見つける



スワンベーカリー太田店  
■住所/群馬県太田市浜町2-5 ■営業/月～金9:00～18:00  
■定休/土日・祝日 ■電話/0276-47-8080

福祉ショップ・ヤマザキショップ太田市役所店▶

## 障がい者雇用を支援続ける「スワンベーカリー太田店」

群馬県太田市は北関東有数の工業都市で、自動車メーカー「SUBARU」のお膝元である。そんな太田市の市役所の目の前に、いつも美味しそうなパンの香りを漂わせているベーカリーショップがある。名前は「福祉ショップ・スワンベーカリー太田店」。障がいを持つ利用者が、丹精込めて焼き上げたパンを購入できる店舗だ。スワンベーカリー太田店のはじまりは、障がい者が働く作業所や授産施設で製造された製品の販路の弱さを解決するために考えられた「福祉ショップ」の発想だった。しかし、それだけで果たして売り上げにつながる集客ができるのかという課題に対して、当時ヤマト福祉財団の故・小倉昌男氏が立ち上げていた「スワンベーカリー」に注目した。毎日、食卓に並ぶパンを製造・販売することで障がい者の雇用を確保し、

## 将来の安心と安定を目指す 就労継続支援A型事業所開設

そんななか、今まで一般就労として障がい者の雇用をしてきた事業を、「障害者総合支援法（※2）」に定められた就労継続支援A型事業所に移行した。そのため平成29年4月に就労継続支援A型事業所「スワン太田」が開設された。この雇用型の福祉サービスにより、就労の機会を確保し賃金面での改善をすることが可能となった。

「A型に移行したことによるメリットを感じているのは、本人たちよりも親御さんかもしれない」と答えたのはスワンベーカリー太田店の店長である北村彰吾氏だ。このように語る背景に、今までの一般就労ではなかった様々な公的な相談体制や訓練などの支援が、将来を心配する親御さんたちに安心を与えていることが考えられる。

北村氏は店長になって3年目。もともとは太田市社会福祉協議会で会計を担当し、障がい者と働く現場の経験はゼロだった。「はじめての職場であったが、不安よりも新しい分野にチャレンジできることへの期待の方が大きかった」と当時を語る。障がい者の雇用をしっかりと確保しつつ、新たな商品を仕入れて販売したり、様々な仕掛けを展開したりすることで新たな顧



取材・文 末吉 利啓 栃木県足利市市議会議員 プロレスラー

1981年足利市生まれ。プロレスリングアライブのプロレスラー。メキシコ修行後2009年にプロレスリングアライブを旗挙げ。2015年に足利市議会議員選挙に出馬し初当選。関東若手市議会議員の会副会長。

集客にもつながれると考えた。平成14年、太田青年会議所の有志が中心となり「株式会社パンジー」を設立し、太田市、太田市社会福祉協議会の支援の下、スワンベーカリー太田店はオープンした。スタート時の障がい者メンバー（※1）は6名で、パンの製造や袋詰めなどの作業を行っていた。その後、こだわりのベーカリーショップが同市内でも乱立し、経営状況が厳しさを増していく。その結果、株式会社パンジーは解散し、平成18年に太田市社会福祉協議会が経営を引き継ぐこととなった。経営改善のため、パン以外の様々な商品の販売も手掛け、軽井沢の人気店「沢屋」のジャムも購入することができるようになった。平成26年には雇用を確保し、販路を安定化させるために「福祉ショップ・ヤマザキショップ太田市役所店」をオープンさせる。市役所内に設置できたことにより、ヤマザキショップの販売は安定し雇用も確保され、「職員や来庁者からも好評を得ている。



スワンベーカリー太田店の店長の北村彰吾氏。インタビューを行った2階のイートインスペースは、談笑しながらパンを食べることができる空間だ。

客獲得につなげていくことに強いやりがいを感じているとのことだ。また「市役所の職員や多くの市民の皆さんが、スワンベーカリー太田店を支えてくれた」と、これまで応援してくれた方々への感謝も語っていた。市役所のみならず児童館などの様々な公共施設の職員が「スワンのパンを買いたい」と、パンの購入に協力してくれている。更に絵画や絵手紙、写真サークルの市民が、お気に入りの作品を店内に展示してくれて、その展示をきっかけに、お店を積極的にPRしてくれているそう。職員と市民が積極的に応援したいと思えるベーカリーとして、認知されていることがうかがえる。

※2 平成25年4月1日に施工された「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律」。

※1 スワンベーカリーでは障がいを持った利用者をメンバーと呼んでいる。

# 障害のある子の「親なきあと」

行政書士 渡部 伸氏

「親なきあと」と言われてもピンとこないという人も多いと思うので、ちょっと以下の状況を想像してみてください。あなたに3歳の子どもがいたとします。

その子は親が年をとっても、ずっと3歳のままです。食べるものも、着る服も、住むところも、親が面倒を見続けます。もちろん、お金の管理など自分ではできません。

これでは、あなたは安心して死んでいくことはできませんよね。障害のある子どもをもつ家族の「親なきあと」とはこういうことです。どの親たちも皆、共通の悩みを持っています。私はこういった悩みを持つ家族のために、少しでも肩の荷を軽くできるように、そして、前向きに将来の準備をするきっかけになるように、個別に相談を受けたり講演会などでお話しをしています。

自分たちがいなくなつたあとには、障害のある子が一人で生きるために必要な準備を、親が生きている間にしておかなければいけません。「一人で生きる」と言っても、だれにも頼らず「100%自立」しよう、ということではありませぬ。親がいなくなつたあとの生活の場や、サポートしてくれる人や態勢を、親が元気でいるうちに整えておいてほしいのです。

## 親なきあとの課題とは

障害者の子の家族にとって「親なきあと」は共通の課題

身近に障害者がいない方にとっては「親なきあと」と言われてもピンとこないという人も多いと思うので、ちょっと以下の状況を想像してみてください。あなたに3歳の子どもがいたとします。

「親なきあと」の悩みは三つ利用できる仕組みはいろいろ

では、その準備しておく項目について、整理しておきましょう。大きく分けて以下の三つの課題があり、それぞれに法制度や福祉サービス、自治体や民間による取り組みが整備されつつあります。利用できる仕組みは確実に増えてきているのです。

### ①お金の管理

「子どものために、お金はいくら残せばいいですか？」個別相談や講演会などで、一番よく聞かれる質問です。

もちろん、お金はないよりはあったほうが安心です。でも、お金を残すだけで親なきあとの問題は解決するのかわからない。残念ながらそうではありません。お金を残したとしても、本人が舞い上がってすぐに使ってしまったら、悪い人たちが寄ってきて騙されたりしては、なんにもなりません。先日も知的障害のある男性が、数か月間にわたって客引きに何度かバーなどの飲食店に連れていかれ、その都度ATMからお金を引き出させられて、貯めていた約1500万円がなくなつてしまつたという事件が報道されました。そういったリスクを防ぎ、残したお金が本人の生活のために使われる仕組みを準備することが大切です。

本人の生活を支えるためのお金を、どうやって管理するのかを知らましよう。その主な方法として、遺言、信託、成

年後見制度、日常生活自立支援事業があります。それぞれの制度の内容と、障害のある子がいる家族にはどのような使い方ができるのかについては、次号で詳しく紹介します。

### ②住む場所

親が面倒をみられなくなったあと、生活の場はどこになるのか、こちらも大きなテーマです。

現在の選択肢は、グループホーム、あるいは障害者支援施設が主なものになります。また、在宅サービスを利用しながら障害があっても一人暮らしをする、という選択肢ももちろんあります。

障害者支援施設については、地域移行を進めるといふ流れの中で新しい施設が建設されることは難しい状況です。グループホームについても、数が足りなくてなかなか入れない、といった話をよく聞きます。このように、親の立場からするとまだまだ不足な現状です。

ただ、ひとくちに障害者支援施設やグループホームといっても、地域や民間でいろいろな取り組みがされています。たとえば親子と一緒に住める施設や、親が集まって子どもたちのためにグループホームを作るといった動きがあります。そのような取り組みの中には、自分が住む地域でも応用できるものがあるかもしれません。

### ③身の回りや日常のケアのこと

障害のある人は、一人だけでは衣食住など身の回りのことはできず、病気の時の通院なども困難なケースが多いと思います。今までは親が間に入つたり、親の庇護のもとで何とかやっていけても、一人になったときは生活が成り立たなくなるのでは、という不安を



行政書士 渡部 伸氏

「親なきあと」相談室主宰/行政書士  
1961年生、福島県会津若松市出身  
東京都行政書士会世田谷支部所属  
2級ファイナンシャルプランニング技能士  
世田谷区区民成年後見人養成研修終了  
娘二人、次女は24歳で重度の知的障害  
世田谷区手をつなぐ親の会副会長

著書：障害のある子の家族が知っておきたい「親なきあと」/障害のある子が「親なきあと」にお金で困らない本(ともに主婦の友社刊)



多くの親は抱えていることと思います。親と同じ役割をしてくれる人はいなくとも、地域に本人のことを知る人がたくさんいれば、本人の生活は周囲が支えてくれます。また、障害者が一人暮らしをするための制度がスタートしたり、各地で家族の不安にこたえる相談窓口ができるなど、新しい取り組みも増えていきます。②と③については今後紹介の予定です。

現在の制度や福祉サービスを知ることと「親なきあと」のためにどんな準備が必要か見えてきます。子どもを将来のために、知識と情報を得るようになってください。

アライブしようぜ! 最前線の生きるを見つける



## 障がい者や職員とつながる地域の「つなぎ」の場

「今後は障がいの新たな仕事づくりにもチャレンジしたい」と語る北村氏からは、パンの製造や袋詰め等の作業以外にも、できる仕事はまだあるのではないかと、いう期待感を感じられた。

製造の仕事、それを売る営業の仕事、それらをまとめる事務の仕事。製造以外にもチラシを作ったり配布するなど、新たな雇用機会をつくるのが課題とのことだ。

また、もうひとつの課題として、ベーカリー2階のイートインスペースの有効活用を指摘した。筆者も案内されるまで気が付かなかつたが、店舗2階に落ち着いたイートインスペースがある。購入したパンはもちろん、美味しい挽き立てコーヒーもいただくことができる。「このスペースの存在を今以上に皆さんにPRして、地域の方やお客さんの憩いの場、交流の場にしていきたい」と北村氏は語る。パンを買ってただ帰るだけではなく、そこでゆっくりお話しをして、お客さん同士、またはお客さんと職員や利用者との交流が促進されていく、そんな「つなぎ」の場としての可能性も感じることができた。

障がい者雇用の場としてのベーカリー



パンを販売する1階のスペースには、所狭しと美味しいようなパンが並ぶ。ほかにもジャムや地場野菜、グルテンフリー食品などを購入できる。

は全国に広がりを見せている。スワンベーカリーも、平成10年に1号店を銀座にオープンさせてから、現在では全国に合計28店舗を展開し、約370人の障がいの者を雇用している。しかし、それと並行するように競争する民間の店舗も増え、パンの市場では激しい競争が進んでいる。福祉ショップといえども、商品を市場に展開して競争をする以上は、こうした激しい競争に打ち勝たなくてはならない。民間のベーカリーにはない、市民や地域との深いつながりや、支えあいの気持ちを有効に活用させていたでいて、これからも地域の「つなぎ」の場として、美味しいパンを届け続けてくれることを期待したい。

# 親なきあと

## 知的障がい者の子のための生活支援 ③

弁護士  
岡野 和弘



### 親亡き後の知的障がい者の子のための生活支援・3

今回の連載では、成年後見制度のうち保佐制度を利用した知的障がい者の生活支援について説明します。

保佐とは、本人が日常的な買い物程度は一人でできるものの、金銭の貸借や不動産の売買等の重要な財産行為は一人ではできないというような本人の判断能力が著しく不十分な場合に、保佐の申立を受けた家庭裁判所が保佐開始の審判をすることにも、本人を援助する人として保佐人を選任する制度のことです。

知的障がいを抱えた本人が44歳（当時）のとき、父親が本人の自立を促そうと本人をグループホームに入居させることとしました。そこで、本人に代わって保佐人にグループホームとの入居契約を締結してもらうために、父親が家庭裁判所に保佐の申立

をしました。その結果、家庭裁判所から保佐開始の審判が出て、社会福祉士が保佐人に選任されました。加えて、家庭裁判所は、保佐人に、以下の代理権を付与するとの審判を出しました（以下抜粋）。

- ① 定期的な収入（年金等）の受領及びこれに関する諸手続
- ② 定期的な支出を要する費用（保険料等）の支払及びこれに関する諸手続
- ③ 福祉関係施設への入所契約に関する契約（有料老人ホームの入居契約を含む）
- ④ 医療契約及び病院への入院に関する契約の締結・変更・解除並びに費用の支払い

保佐人に選任された社会福祉士は、右記③の代理権に基づいて、本人とグループホームとの入居契約を締結しました。

社会福祉士は事情があつて保佐人を辞任し、そのため私が家庭裁判所から保佐人に選任されました。私が行っている主な保佐

業務は、次のとおりです。

- ① 毎月のグループホームへの利用料の支払い
- ② 市役所への心身障害者福祉手当の申請  
受給手続・現況届の提出
- ③ 障害福祉サービス  
（障害支援区分認定などの申請手続）
- ④ グループホーム等家賃助成の申請手続
- ⑤ 住民税申告
- ⑥ 障害年金の受領、現況届の提出

右記①から⑥の業務は、全て先述の①から④の「代理権」に基づいて行っているものです。ただ、右記①から⑥の業務は、グループホームで行っているところもあるでしょうし、親が健在であれば親もできることです。しかし、本人が高齢者となってグループホームを退所することになった場合は、もはやグループホームに頼ることはできません。また、親もいつまで健在かは分かりません。私は本人よりも年齢が下ですので、本人のグループホーム退所後や、本人の親が亡くなった後も保佐人として本人の生活支援をしていくことができます。

本件では既にご両親とも亡くなつていますので、今後は私が引き続き右記①から⑥の業務をしていくほか、将来的には高齢者施設への入所契約・利用料の支払い、入院契約の締結・入院費の支払いなどの業務をしていくことになるでしょう。

### 保佐人による「保佐制度」と「成年後見申し立て」について

法律による後見制度には、本人の判断能力が全くない場合に家庭裁判所が後見人を選ぶ「成年後見」、本人の判断能力が著しく不十分な場合に家庭裁判所が保佐人を選ぶ「保佐」、本人の判断能力が不十分な場合に家庭裁判所が補助人を選ぶ「補助」の3つの類型があります。

そのうち「保佐」は、右頁で説明したとおり、本人が日常的な買い物程度は一人でできるが、金銭の貸借や不動産の売買等の重要な財産行為は一人ではできないというような本人の判断能力が著しく不十分な場合の援助を想定した制度です。

保佐開始の審判を受けた本人自身が一定の重要な行為（下のコラム参照）を行う際には、保佐人の同意が必要になります。保佐人は、本人が一定の重要な法律行為を行う際に、その内容が本人の利益を害するものでないか注意をしながら、本人がしようとすることに同意したり（同意権）、本人が保佐人の同意を得ないで重要な財産行為を行つてしまった場合に、これを取り消したりします（取消権）。

また、保佐人は、家庭裁判所で認められれば、預貯金の払い戻し、不動産の売却

介護契約締結などの特定の法律行為について、本人を代理して契約を結ぶこともできます（代理権）。

但し、代理権を付けたい場合は、保佐開始の申立のほかに、別途、代理権を保佐人に与える申立が必要であり、かつ、本人の同意も必要です。保佐人には、本人の意思を尊重し、かつ、本人の心身の状態や生活状況に配慮する義務や（身上配慮義務）、保佐人が行使した同意権、取消権、代理権の内容について家庭裁判所に報告する義務があります（報告義務）。

（以上、「成年後見申立の手引」東京家庭裁判所より抜粋）



親亡き後の障がい者の生活支援は、前回までの連載で紹介した任意後見制度のほか、成年後見制度（成年後見・保佐・補助）を利用することも考えられます。

### 保佐人の同意が必要な「重要な法律行為」とは



本人自身が一定の重要な法律行為を行う際には保佐人の同意が必要になります。同意が必要な法律行為は民法13条1項に定められています。具体的には、以下の法律行為です。①預貯金の払い戻し ②金銭の貸し付け ③金銭を借りたり、保証人になること ④不動産など重要な財産に関する権利を取得したり失ったりする行為をすること ⑤民事訴訟の原告となって訴訟行為をすること ⑥贈与、和解、仲裁合意をすること ⑦相続を承認、放棄したり、遺産分割をすること ⑧贈与や遺贈（遺言による贈与）を拒絶したり、自分に不利な贈与、遺贈を受けること ⑨新築、改築、増築や大修繕をすること ⑩民法602条の一定期間（例えば土地は原則5年、建物は3年）を超える賃貸借契約をすること（以上、「成年後見申立の手引」東京家庭裁判所より）

## 各種募集と告知

知的障がい者向けの就労情報や各種告知と募集を掲載しています。布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」も募集しています。

### 協業していただける知的障がいのあるアーティスト・企業を募集



知的障がいのあるアーティストが描く作品をプロダクトに落とし込み、社会に提案するブランド「MUKU」は、協業していただける知的障がいのあるアーティストや協業を希望される企業を募集しています。ぜひお気軽にご連絡ください。



- 名称  
MUKU PROJECT
- 募集内容  
知的障がいのあるアーティスト／協業企業
- 所在地  
東京都港区赤坂9-1-7 秀和赤坂レジデンシャルホテル654号
- お問い合わせ  
080-2844-8293
- ホームページ  
<http://muku-official.com/>

### 布施博 & 大矢真那の訪問先／取材先を募集しています



知的障がい者を雇用する企業や団体、知的障がい者施設、学校、場所、スポーツ会場などへ布施博または大矢真那が直接お伺いして取材させていただき、本誌にてご紹介いたします。

- 応募条件  
知的障がい者を雇用している（雇用予定を含む）企業や団体、知的障がい者施設（学校を含む）、知的障がい者が活躍されているスポーツ団体、スポーツ大会、地域、場所など
- お問い合わせ  
下欄にある「一般財団法人メルディア」事務局まで電話またはメールなどにてご連絡ください



※取材に関して費用等は一切かかりません

### 募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア（本誌）」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ことや告知などを無料で掲載しています。「知的障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、メルディア事務局までお問合せください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、営利目的の内容、特定の宗教や信条を持つと判断される内容、反社会的と判断される内容などについては掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

#### 情報掲載のお問い合わせ

一般財団法人メルディア

〒163-0632  
東京都新宿区西新宿1-25-1  
新宿センタービル32F

一般財団法人メルディア 事務局  
担当／竹内 宛て

TEL : 03-5381-3213  
MAIL : [prd@san-a.com](mailto:prd@san-a.com)



本ページ内の求人に関する部分については本誌および事務局が斡旋などを行うものではありません。求人に関するお問い合わせは上記に掲載の各企業または各団体に直接お問い合わせください。本ページには最新の情報を掲載していますが、情報提供先の都合等により募集を締め切る場合があります。あらかじめご了承ください。（一般財団法人メルディア事務局）

T.OKAMOTO column

## 岡本隆根 何気ない言葉

～ダウン症の弟を持つプロデューサーと出会って～

副題にあるプロデューサーは当時37歳。今のわしと同じ歳だったわけなんやが、彼はどんな時でも自分の理念を崩さない人やった。

仕事で成功して浮かれて良いはずの時も、危機的な状況の時であっても、常に冷静で、今やるべき事をきちんと見出し、各アーティストに的確な指示を出すような人やった。

彼の風体はといえば、まるで70年代のロックミュージシャンそのまま。しかし、この見た目と、彼が持つ理念との間には大きなギャップがあって、いつも「不思議な人やなあ」と思っておったんです。

出会ってから数年が経ち、ある日彼と居酒屋で酒を飲みながら話をしている時のことやったかな。彼の強い理念の根本がどこにあるのかを聞いてたことがあった。その答えは、「弟がダウン症である」ということに端を発しているのだと話してくれた。

彼が5歳の時、ご両親にこう言われたんだそうです。

—— あなたの弟は永く生きられないかも知れない。もしそんな風になったとしても、決して悲しまないように ——

その瞬間、視界が大きく揺らぎ、しばらくは話さえ出来ないくらいに落ち込んでしまったと、彼は語ってくれました。そして、子供ながらに考え抜いたすえ、「弟の分まで思いを伝えていける人生にしよう」と、その時に深く胸に刻んだということでした。

学生時代に彼は、音楽家を目指す道を選ぶか、障がいを持つ人たちを支援する仕事に進むか、相当迷った時期があったらしい。その結果、フリーランスの仕事を選び、なんと今は両方の世界で活躍しておる。

わしと彼の共通点は、「音楽が好き」ということはもちろん、それ以上に、たぶん彼が持つ「理念の根本」が、わしの中にあるものと同じやからなんだとも思っています。

それは、家族の絆や、家族から受けた愛情の深さであったり、幼い頃に両親から育んでもらった感性、自分が人生の中で培ってきた「何か」など、複数の要素に起因しているんじゃないかと思えます。

ダウン症を持つ彼の弟さん、今はもう40歳を過ぎましたが、元気にしておる。毎年の春と秋に、彼と弟さん、わしの3人で遊園地に遊びに行くやけど、わしはいつもその日を楽しみにしておる。わしは遊園地で遊ぶ2人の笑顔を見る度に、本当に幸せな気分になれる。彼らの笑顔を見ると、いつも必ず自分の家族の声が聞きたくなるんやけどな。

岡本隆根オフィシャルブログ「日常が日常にあらず」 <https://ameblo.jp/takaneokamoto/>



シンガー・ソングライター  
**岡本隆根**  
Takane Okamoto

1979年兵庫県生まれ。法政大学に進学するも中退。その後、紆余曲折を経て音楽活動を志すが様々な寄り道を繰り返し大停滞する。30代に入り、真剣に自分の音楽への意思を見つめ直し再出発。現在では、その勢いが認められ各界において支持者が続出中。



Design Your Life  
**MELDIA**  
GROUP

同じ家は、つくらない。

# 03 | MELDIA CONTENTS 2018 MAR.

## 01 | 布施博が訊く

栃木県那須塩原市・つながるひろがるアート展NASU 編

## 06 | 一般財団法人メルディアとは？

メルディアの基本理念、財団概要、支援事業

## 07 | 知的障がい者を応援！

東京都港区・MUKU PROJECT編

## 10 | トウテミル！

MC & 女優・右手ナギが各方面に「問うてみる」

## 11 | 緊急取材

A型就労施設の閉所問題について緊急取材を敢行！

## 13 | キセキノメイシ

東京都渋谷区・知的障がい者による「世界で1枚だけの名刺」

## 15 | 水越けいこ連載「M size / はじまり」

水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る

## 17 | つむぐ

知的障がい者と一緒に「ものがたり」を紡ぐ 《特別編》

## 21 | アライヴしようぜ！

異色のプロレスラーが最前線の「生きる」取材

## 24 | 障がいのある子の「親なきあと」

「親なきあと」相談室／行政書士・渡部伸

## 25 | 知的障がい者の子のための生活支援

弁護士が教える「知的障がい者のための関連法律」など

## 27 | 何気ない言葉

シンガーソングライター・岡本隆根の本音コラム

## 28 | 募集 & 告知

知的障がい者向けの生活情報と各種募集

MELDIA 3月号 2018年1月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局

発行人 / 小池信三

編集 / 株式会社サン・オフィス

編集人 / 東宮恵美

編集長 / 山口慎市

進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝亘介(新村印刷)

編集部 / 東宮恵美、谷口智彦、都筑亮太、加島和彦

ライター / 水越けいこ、岡野和弘、岡本隆根、大矢真那、山口慎市、渡邊希望、右手ナギ、末吉利啓、加島和彦、横関寿寛

カメラマン / 加島和彦、工藤裕之、吉岡晋

デザイン / 有限会社フレッシュ・アド

印刷製本 / 株式会社オフセット

協力 / MELDIA GROUP 株式会社三栄建築設計、ギャラリーバーン、MUKU PROJECT、スワンパークリー太田店、伊藤七男、株式会社ザクセスコンサルティング(キセキノメイシ)、株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、PHOTO MIO JAPAN、新村印刷株式会社、株式会社協同エージェンシー

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2018©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア&月刊メルディア/MELDIA GROUP 三栄建築設計/サン・オフィス



次号予告

**MELDIA VOL.4**

2018年2月25日  
発刊予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル32F

一般財団法人メルディア事務局

TEL: 03-5381-3213

MAIL: prd@san-a.com

**メルディアグループ**

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計

〒163-0632

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル32F



まだ25年、  
これからのメルディア